栄光の軌跡

－ H16 ～ H25 を振り返って －

八重山高等学校

本校は1942年に設置された沖縄県立八重山中学校と沖縄県立八重山高等女学校をその母胎とし、学制改革により八重山高等学校となり、平成24年４月26日の創立記念日に70周年の佳節を迎えた。

本校は日本最南端の普通高校であり、校是「師弟同行」、校訓「学徳・進取・雄飛」のもと、様々な輝かしい実績を上げ、その間巣立っていった１万７千余の卒業生が、県内外のあらゆる分野で活躍している。特にロンドンオリンピックでは本校５５期の新城幸也さんが八重山初のオリンピック選手として出場するなどの活躍をみせた。本校の生徒達は地域に見守られ、勉学に諸活動に伸び伸びとして何事にも一生懸命に取り組んでいる。 これまで空手、弁論、郷土芸能、家庭クラブ、生物の５つの分野で８つの日本一がある。

本校では、現在でも８割以上の生徒達が部活動に加入し、高い目標を掲げ鍛錬を積み、地道な活動を続け九州、全国へと派遣される活躍を見せている。

＜H16 ～ H25　生徒の活躍状況＞

平成16年度

・県高校総体　新体操男子個人総合１位　西花祐貴（２年）　空手男子個人形１位　仲嶺亮（３年）
・全九州高校総体　空手男子個人形１位　仲嶺亮
・県高校陸上選手権　男子走幅跳１位　與那花幸太(2年)
・県高校新人　男子ソフトボールベスト４

平成17年度

・県高校総体　新体操男子個人１位　西花祐貴（3年）陸上男子８種競技１位　西里幸郎（3年）男子ソフトボールベスト４
・県高校ハンドボール選手権　男子ベスト４
・県高校駅伝　女子４位

平成18年度

・のじぎく国体
・兵庫少年女子バスケットボール県代表　﨑山芙美乃（２年）

平成19年度

・県高校総体　ソフトテニス女子団体ベスト４
・全沖縄高校ソフトテニス　男子個人戦優勝　村山信榔（１年）狩俣勇太（２年）
・県高校新人陸上　男子5000M １位　宮良拓海(２年)
・県高校駅伝　男子４位　女子４位
・県高校新人駅伝　男子優勝

平成20年度

・県高校総体　陸上　女子走高跳１位　嘉弥真玲奈（３年）　フトテニス女子団体２位
・県高校新人　レスリング個人戦優勝　﨑枝俊希（２年）　団体３位
・県高校駅伝競走　男子優勝　女子４位

平成21年度

・県高校総体　陸上　男子3000M障害１位　長尾連（３年）　レスリング個人戦　66kg優勝　﨑枝俊希（３年）・県高校新人　レスリング　個人戦60kg優勝　奥松悠（２年）　団体３位
・県高校駅　男子３位　女子　４位

平成22年度

・海邦国体記念記録会兼国体選考　男子共通200M １位　新村真人（2年）
・県高校総体　バスケットボール　女子４位　空手男子団体形４位　陸上　男子　100M １位　新村真人　女子1500M １位　平安名由莉
・南九州選手権大会　陸上　男子100M ３位　新村真人　男子200M ２位　新村真人
・「美ら島沖縄総体2010」　陸上男子　200M□新村真人　ソフトテニス男子個人戦　有馬昌吾・高原康綱　出場
・県高校新人　空手　女子組手４位レスリング55kg優勝　古見優季（2年）
・県高校駅伝　女子３位
・県高校新人駅伝　女子３位　男子４位

平成23年度

・県高校総体　陸上　男子100M １位　新村真人（３年）　女子７種競技１位　阿利唯（3年）
・国民体育大会陸上競技最終選考　少年男子A100M １位　新村真人（3年）　少年男子B走幅跳１位　前三盛敦貴（1年）
・県高校駅伝　女子４位
・県高校新人駅伝　女子２位

平成24年度

・県高校総体　バスケットボール女子ベスト４　陸上　女子3000M １位　平安名由莉（3年）　サッカー男子　ベスト４
・県高校新人陸上　女子1500M・3000M　１位　古見早夏(1年)　男子８種競技１位　前三盛敦貴(2年)
・全九州新人陸上　男子８種競技１位　前三盛敦貴

平成25年度

・陸上競技選手権兼国体選考　女子B1500M １位　宮島萌（1年）・県高校総体　陸上　男子８種競技１位　前三盛敦貴（3年）　男子三段跳１位　新垣志保（3年）
・全九州高校総体　陸上　男子８種競技１位　前三盛敦貴　女子やり投げ４位　黒島美香（2年）
・県国体最終選考　陸上　少年共通走り高跳１位　前三盛敦貴　少年A110M障害１位　前三盛喬貴(1年)
・全国高校総体　陸上　男子８種競技４位　前三盛敦貴　女子やり投げ　黒島美香出場

日本最南端の高等学校

八重山商工高等学校

本校は、沖縄本島から南西へ約400kmに位置する石垣島にあり、北方に県下最高峰の於茂登岳を望み、南方に太平洋を臨む真栄里の地に昭和42年４月に開校した日本最南端の高等学校です。

開校して以来、「友愛津梁」の校訓の下、地域の皆様に支えられ、地域に根ざした専門高校として発展を続け、本年で創立47年になりました。この間に本校を卒業した八千人余の皆さんは、地元はもちろん、島外、県外で活躍されています。去る平成25年３月の卒業生も、資格取得や文化系・体育系の各種大会で活躍するとともに、進路面においては一人一人が自分の進路について真剣に取り組み、就職・進学とも100パーセント（全日制）の決定となりました。

全日制課程は工業系の機械電気科機械コース（定員20名）、電気コース（定員20名）、情報技術科（定員40名）、商業系の商業科会計システムコース（定員30名）、情報ビジネスコース（定員30名）、観光コース（定員20名）で構成されています。

特色ある教育活動として、男子生徒の多い機械電気科及び情報技術科と女生徒の多 い商業科を一緒にして男女比を半々にしたミックスホームルームを編成しています。また、各学科の専門科目に応じた多くの各種資格・検定等の取得を奨励し、実習・課外講座等で力を付けさせ、工業科はジュニアマイスターゴールドや機械加工技能士２級など、商業科は６種目１級（６冠）取得者を輩出するなどの成果をあげています。また、他学科・コースの科目を選択できる総合選択制の教育課程も実施しています。

「職場実習」は地元事業者の協力の下に昭和45年度から実施され40年余の歴史を誇り、現在は校外学習として単位認定を行っています。また、台湾や中国への海外修学旅行等を通して海外との教育・文化の交流を図っています。

部活動は、体育系が14部、文化系が17部、同好会が９部あり、多くの生徒がそれぞれの部活動で青春を謳歌しています。特に野球部の離島初の甲子園出場をはじめ、郷土芸能部の全国大会最優秀賞及び国立劇場公演、スターリングテクノラリー全国優勝など文武にわたる輝かしい実績があります。本校の生徒は入学段階から工業系・商業系の各種資格に対する意識が高く、日頃から取得に向けて熱心に取り組んでいます。そのため、体育系の部活動とかけ持ちする生徒が多く、練習時間のやりくりに苦心しています。しかし、そのような中にあっても、沖縄県高等学校総合体育大会・新人大会等の県大会をはじめ、八重山地区の大会にも多数の部が参加し、充実した部活動を行っています。高体連関連の県大会ではなかなか上位入賞することはできませんが、平成23年度の沖縄県高等学校総合体育大会では男子やり投げで３位に入賞し、南九州大会に参加しました。今後、部活動と資格取得の取組をうまく両立させて上位入賞を目指していきたいと思います。

本校定時制課程は商業科（定員40名）で編成されています。昭和42年の本校設立から３年目にあたる昭和44年４月に八重山高等学校定時制から175名の生徒とともに移管され、これまで900名余の生徒が卒業し各界で活躍しています。平成２年度から単位制に移行し、卒業単位数を満たせば前期でも卒業できるようになりました。また、社会人に対する再入学や高校入試での特別募集制度を活用して受入を推進しています。しかし、入学者が定員40名に満たない状況があるため、定時制存続に向けた入学者増を図る取組を推進するとともに、入学した生徒に対する支援体制の構築についても取り組んでいるところであります。

在校生は日頃の学習活動や学校行事、簿記やワープロなどの資格取得、生徒生活体験発表大会、定通制体育大会等で素晴らしい成果を上げています。

沖縄県定時制通信制体育大会においては平成22年度夏季大会で砲丸投げ１位、走り幅跳び１位、1500m３位、秋季大会でバドミントン個人ダブルス３位、平成23年度夏季大会で400MＲ２位、秋季大会でバドミントン団体３位、平成24年度夏季大会でバドミントン団体及び個人ダブルス３位、円盤投げ３位（全国大会出場）の実績を残しています。

本校としましては、今後とも、スポーツに対する資質・能力を育成するとともに、変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな心、健やかな体の知・徳・体をバランスよく育ててまいります。

本校の体育系部活動の足跡

八重山農林高等学校

本校は、八重山の広大肥沃な未開拓地の農業開発の重責を担う農業後継者を養成するという郡民の強い要望により昭和12年に創立されました。学校創立期より戦前戦後を通して、八重山における中等農業教育機関として長い歴史と伝統を誇ります。

今日、農業教育においては、新しい時代と技術革新に対応できる農業教育を目指しバイオテクノロジーや情報処理学習等を取り入れ、長い歴史と伝統に培われた校風のなかで、地域の特性と有利性を求めた亜熱帯農業の創造をめざした特色ある学校づくりに励んでいます。これまで沖縄県学校農業クラブ大会や九州学校農業クラブ大会では最優秀に輝き、全国大会でも活躍するなど大きな成果を上げています。卒業生も、農業後継者、また農業以外の各分野でも広く活躍しています。

体育関係では、これまで郡下の多くのスポーツ大会が本校で開催され、地域スポーツのメッカとして大きな役割を果たしてきました。スポーツの盛んな環境のなかで育まれた本校の体育活動も輝かしい実績があります。地区３校での各種対抗戦では、郡民あげての盛り上がりをみせ、また陸上競技や柔道競技では全県を制する選手の輩出もありました。

しかし、昨今の農業教育を取り巻く情勢は厳しく、生徒数の減少等により体育系部活動の活動も学校の諸々の問題を浮き彫りにしながら今日に至っています。平成25年度より学科改変により従来の５学科体制を改め、４学科体制に移行し、魅力ある学校づくりに邁進しているところであります。

現在の部活動数は体育系22部、文化系15部ではありますが、個人スポーツや少人数での活動にとどまり、チーム編成に苦労しています。それでも最近の体育系部活動の個人種目においては平成19年度県新人体育大会ボクシング競技ライトフライ級において、美崎伸弥選手準優勝。九州高校新人ボクシング大会ライトフライ級優勝。翌年20年度県総体ボクシング競技ライトフライ級優勝、全九州高校体育大会ボクシング競技ライトフライ級準優勝全国高校総体ボクシング競技ライトフライ級三位入賞の快挙を挙げました。

さらに、平成21年度県新人体育大会柔道競技81kg級で玉津則貴選手三位入賞

平成23年度県新人体育大会レスリング競技96kg級比嘉孝太三位入賞

平成23年度新城雄大、県総体自転車競技10種目中２種目６位入賞、学校対抗６位、平成23年度県新人大会自転車競技10種目中準優勝１種目、３位２種目、学校対抗３位。平成24年度県総体自転車競技において、10種目中準優勝２種目、三位入賞１種目、学校対抗４位、九州総体並びに全国総体出場、平成24年度県新人大会自転車競技10種目中優勝２種目、準優勝２種目、学校対抗準優勝

平成24年度県総体レスリング競技120kg級加藤亮選手準優勝、県新人体育大会レスリング競技96kg級準優勝するなど個人種目においてはめざましい活躍がありますが、今後は集団スポーツをいかに活性化させていくかが課題となっています。

伝統の継承と強化

陽明高等学校

本校は昭和54年に沖縄県立大平高等学校（普通科８学級、家政科２学級、合計10学級）として開校しました。その後、平成７年に校名を現在の陽明高等学校に変更し「総合学科」（６学級）として、新たな歩みを始めました。平成12年には総合学科５学級とし、新たに「介護福祉科」（１学級）を設置し現在に至っております。本校は総合学科の特色ある科目の「産業社会と人間」を１学年で履修し、県内の大学、専門学校、企業、事業所等の見学や体験入社等を実施し、キャリア教育の充実に取り組んでおります。また、普通教科はもとより工業系、商業系、農業系、介護福祉系の教科を選択科目として履修することができ、生徒の興味関心に対応し、多様な進路選択ができる教育課程を組んでおります。

平成26年度入試より、介護福祉科が募集停止となり、総合学科６学級の学校として再スタート致します。

それでは、平成16年～平成25年の10年間の本校の部活動と実績を報告します。この間では、女子ハンドボール部の活躍が顕著である。本校のハンドボール部は平成10年頃から、県内で上位の実力を発揮し活躍しており、その勢いは継続されている。平成16年の県高等学校総合体育大会での準優勝。同年の県高等学校ハンドボール選手権大会で優勝。平成17年の九州高校ハンドボール選抜大会で優勝し、第28回全国高等学校選抜大会で優勝を果たした。また、同年の県高校総合体育大会にて優勝し、全国高等学校総合体育大会（千葉県）で準優勝を果たした。翌年、平成18年の県高校総合体育大会にて優勝しみごと２連覇を達成した。その後、県高等学校ハンドボール選手権大会と県高等学校新人体育大会にて優勝した。平成19年には県高校総合体育大会にて優勝しみごと３連覇を達成した。また、全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技優秀選手に翁長和佳子が選出され、第15回日・韓・中ジュニア交流競技会日本選手団ハンドボール競技に参加した。平成21年の県高校総合体育大会にて女子ハンドボール部が優勝し九州大会3位となった。平成22年の県高校総合体育大会では準優勝し、美ら島沖縄総体2010平成22年度全国高等学校総合体育大会に県代表として参加しベスト16となった。平成23年の県高等学校総合体育大会で準優勝し、続く全九州高等学校体育大会で3位となった。平成24年の第40回九州高校選抜ハンドボール大会にて女子ハンドボール部は優勝を果たした。平成24年の県高等学校総合体育大会で優勝し、九州・全国大会へ出場した。平成25年の県高等学校総合体育大会では３位となった。このように、この10年間は女子ハンドボール部が本校の部活動を牽引し、部活動の活性化に貢献した。今後も高い実力を維持しつつ更なる発展を期したい。

次に、テニス部の活躍を紹介したい。平成16年の県高等学校総合体育大会でテニス女子団体で優勝(2連覇)。全国選抜高校テニス大会九州地区大会へ出場した。翌年平成17年の県高校総合体育大会でもテニス女子団体優勝しみごと３連覇を達成した。個人ダブルスの優勝と個人シングルスの準優勝も果たした。また、平成16年の県高等学校新人体育大会でも優勝を果たしテニス女子団体３連覇(新人大会)を果たしている。平成18年と19年の県高校総合体育大会ではテニス女子団体は準優勝している。この間の夏季ジュニアテニス大会や沖縄県テニス選手権大会においてもシングルスやダブルスでも優勝・準優勝となり、女子テニスにおいて強豪校として活躍した。本校は硬式テニスコートが３面とソフトテニスがコート１面整備されており、競技環境としては恵まれている。今後、さらに環境整備に取り組んで、選手の育成に努めたいと考えている。

本校部活動の特色の一つに、ボクシングの練習環境の充実があげられる。スパーリングに必要なリングをはじめ、様々な練習器具が取り揃えられている。このような環境の元、平成16年の県ボクシング選手権大会バンタム級にて準優勝。春季大会にて優勝を果たした。平成17年の県高校総合体育大会フライ級優勝、モスキート級準優勝。県ボクシング選手権大会フェザー級・モスキート級で優勝。平成21年県高校総合体育大会でフライ級準優勝し、全九州高等学校体育大会へ参加した。平成22年・23年の県大会でも上位入賞を果たしている。

その他に、ウエイトリフティングでの優勝やバドミントン部の活躍が見られた。本校の伝統であるハンドボール部やテニス部・ボクシング部の更なる発展と他の部活の活性化に取り組んでいきたい。

（文責：盛山泰秀）

与勝高校の体育系部活動の歩み

与勝高等学校

与勝高校と言えば、ソフトボール、サッカー、バドミントン…」とスポーツが強いイメージがあった。そのような本校の体育系部活動について県高校総体、新人大会を中心に歴史をたどってみたい。

本校は昭和54年８月、与那城勝連両自治体の長年の夢であった地元への高校設置が認可され、翌55年４月に第１回入学式を挙行、平成21年には30周年を迎えた学校である。その間築かれた校風と伝統の下、他伝統校にも劣らない輝かしい実績を残してきた。特に、本校独自の取り組みとして、美化活動の象徴である「おそうじ大会」も開校当初から続く伝統であり、生徒の美化に対する意識は高いものがある。

そのような中、本校の生徒・職員は一丸となって諸活動に取り組んできた。

学校設立当初から部活動が盛んであり、特にサッカー部は創立２年目の新人大会から頭角を現し、その後高校総体４連覇、全国高校総体６回出場、全国高校選手権４回出場するなど一時代を築いている。また、同時期には男子ソフトボール部が県総体５連覇、更に九州高校総体３連覇を果たし、昭和58年には全国総体３位、昭和62年全国総体において優勝、平成元年にも準優勝に輝き沖縄県ソフトボールのレベルの高さを示し、「沖縄に与勝有り」の気概を見せた。

本校は、創立５年目までにスポーツの盛んな学校として名をはせ、前出のサッカー男子、ソフトボール男子を始め、ソフトボール女子、バスケットボール女子、バドミントン男女団体・シングルス男女・ダブルス男女、柔道経重量級、陸上競技２種目で高校総体、新人大会において優勝を果たしている。その他、同大会３位までだけでも陸上、バドミントン、柔道など多くの競技で入賞し、フェンシング団体男女は県民大会にて優勝、同競技第２回県新人大会では男女とも個人優勝をしている。

個人種目では、円盤投げ・ハンマー投げで外間君が九州大会を征し、全国総体でも２位に入るなど好成績を挙げ昭和62年から３年連続高体連優秀選手表彰を受けている。

創立10年から20年にかけては、平成７年から正式に始まった高校総体や新人大会のフェンシング競技において、団体、個人種目３種全てを男女が征し与勝の名を高めた。フェンシング部は、第42回国民体育大会「海邦国体」の為に強化された競技指定校を受け発足、平成２年から平成８年頃まで男女とも団体、個人３種目の成績上位を本校で占め、九州大会でも２位、３位の成績を残した。全国選抜ではベスト16まで勝ち進んだことがある。また、前述したサッカー部はその10年間で大きな大会で６回優勝、３回準優勝し、全国総体、選手権大会に出場している。その他、この時期にはバドミントン部が団体、個人（シングルス、ダブルス）で好成績を挙げ、バレーボール女子ソフトボール男子で優勝をしている。個人種目では柔道、空手などが気を吐いた。

平成12年からの10年間では、団体では空手団体組手、個人種目では、空手男女（組手、型）、水泳男女、バドミントン男女が優勝を勝ち取った。しかし、往年のような活躍ぶりではなく、活動がやや下向きになった時期に当たる。

平成11年文部科学省指導の下沖縄県にも中高一貫校の設置が認められ、研究指定を受けながらその基礎を構築し、平成18年与勝緑が丘中学を設置、翌19年に中学校への入学が始まった。現在中学校学年２クラス、高校学年４クラスの併設型中高一貫校として諸活動に勤しんでいる。

開校当初より高校学年６クラス規模の学校として運営されてきたのが、中高一貫推進校への移行に伴い学年４クラス規模の高校へと変化した。そのため、本校は現在500名に満たない生徒数であり、中頭地区全日制高校においては最小の生徒数となっている。そのことは少なからず団体競技に取り組む際に支障となっている。そのため、この10年というもの、これまで多くの実績を残してきた団体競技においては連覇のような目立った実績はないが、個人種目においては気を吐いている状況にある。また、今年度サッカー部が久しぶりに県高校総体において３位に入り、ハンドボール部やバスケットボール部が上位をうかがおうかという活躍を見せてきて、明るい兆しが見えてきた。今後の活躍が楽しみである。

体育系部活動10年の歩み

読谷高等学校

本校は、昭和23年コザ高等学校喜名分校として発足し、昭和25年４月読谷高等学校として独立しました。設立当初から現在まで生徒会活動・部活動が盛んである。

昭和20年代～60年代は、男女バレー、男子バスケット、体操、相撲、女子ソフトボール、ラグビー、女子ハンドボール、レスリング、フェンシング、自転車が県大会や九州・全国大会で活躍している。

平成に入り、野球部が「全員野球」モットーに甲子園大会に出場を果たしました。また、男子ソフトボールが全国大会で３位の成績をあげている。ダンス部も２年連続の文部大臣賞特別賞を受賞し日本一となった。

平成10年代前半はダンス部、男女ソフトボール、男女バドミントン、女子テニスが活躍している。特に男子ソフトボールは全国総体準優勝を成し遂げた。

平成16年度～25年度までの10年間の活躍を下記の通り、まとめました。

平成16年度

県総体　優勝　女子ソフトボール
　　準優勝　男子ソフトボール
県新人　準優勝　女子ソフトボール

平成17年度

県総体　優勝　男子ソフトボール
　　準優勝　女子ソフトボール
全九州男子ソフトボール大会　優勝

平成18年度

県総体　優勝　男子ソフトボール
九州総体　第3位　男子ソフトボール
県新人　準優勝　男子ソフトボール
県新人ラグビー大会　優勝

平成19年度

県総体　優勝　男子ソフトボール
　　優勝　ラグビー
県新人　準優勝　男子ソフトボール
全九州男子ソフトボール大会　第３位
ラグビー県大会　準優勝
県ボクシング選手権大会　ミドル級　準優勝

平成20年度

県総体　優勝　男子ソフトボール
全国総体　準優勝　男子ソフトボール
県高校新人陸上競技大会　男子走り幅跳び　優勝
県新人　優勝　男女ソフトボール
　　優勝　ボクシングフライ級
　　準優勝　男子個人　柔道66kg級
九州新人大会　第３位　ボクシングフライ級
　　第３位　男子ソフトボール

平成21年度

県総体　準優勝　男子ソフトボール
　　準優勝　陸上競技　男子走り幅跳び
南九州高校陸上競技大会　第３位　走り幅跳び
九州高校総体　優勝　男子ソフトボール
県高校新人陸上競技大会　優勝　走り幅跳び
県新人　優勝　男女ソフトボール
九州高校新人大会　第３位　男子ソフトボール
県高校ボクシング大会　バンタム級　準優勝

平成22年度

県総体　優勝　女子ソフトボール
　　準優勝　男子ソフトボール、女子硬式テニスダブルス、陸上競技走り幅跳び
　　ボクシング　バンタム級
九州高校総体　優勝　男子ソフトボール
県新人　優勝　男子ソフトボール（３連覇）
　　準優勝　女子ソフト、男子柔道個人級
県高校新人ラグビー大会　十人制の部　優勝

平成23年度

県総体　優勝　女子ソフトボール
　　準優勝　男子ソフトボール
県新人　優勝　女子ソフトボール
　　準優勝　男子ソフトボール
県学生ゴルフ選手権大会　女子個人　優勝

平成24年度

県総体　優勝　男子ソフトボール
中学・高校ゴルフ交流大会　女子個人　優勝
県新人　優勝　男女ソフトボール

平成25年度

九州ジュニアゴルフ県予選大会　個人女子　優勝
県総体　優勝　男子ソフトボール
　　優勝　ゴルフ　女子個人
全九州高校総体　第３位　男子ソフトボール